

## 〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

11月報

### インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 150件（前月比3.3、前年比1.1）でした。9月が最低値となっていました。10月から増加に転じており、11月は前月比3.3と大きく増加しています。今後は、例年通りに増加するものと推測され、注意が必要です。前年比は1.1であり、例年なみのようです。水俣(13.7)が特に多くなっています。

### 小児科定点

（全体傾向）

2,946件（前月比0.94、前年比0.69）であり、感染性胃腸炎1,348件が大きく占めています。前月比は大きな変化はありませんが、前年比は減少しています。前年比の減少は感染性胃腸炎の減少（前年比0.6）が大きく影響しています。インフルエンザ150件（前月比3.3、前年比1.1）が増加してきており、今後の発生動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 204件（前月比0.2、前年比0.8）と9月をピークとして、以後は連続して減少しています。9月は例年より大きな流行が見られましたが、11月は例年並みに下がっているようです。水俣(18.0)が特に高くなっています。
2. 咽頭結膜熱 : 141件（前月比1.2、前年比2.6）でした。8月をピークとし、連続して減少しましたが、再び11月に増加に転じています。昨年よりは高い値で推移しています。菊池(11.6)が特に高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 278件（前月比1.6、前年比1.1）でした。6月をピークとして、以後は9月まで連続して減少しており、10月に増加に転じ、11月までは連続して増加しています。6月は例年より大きな流行を認めましたが、その後は例年並みに推移しているようです。菊池(17.2)が特に多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 1,348件（前月比1.4、前年比0.6）でした。7月から連続して減少していましたが、10月からは増加に転じ、11月はさらに増加しています。前年比は0.6であり、9月以降は例年より低い値で推移しているようです。今後は例年通りに増加する可能性が高いため、注意が必要です。菊池(62.0)、山鹿(56.5)が特に高くなっています。
5. 水痘 : 70件（前月比1.2、前年比0.7）でした。昨年よりは低い値となっています。4月からは大きな変化がなく推移しているようです。宇城(3.8)、有明(3.0)が高くなっています。
6. 手足口病 : 320件（前月比0.8、前年比0.7）でした。7月をピークとして以後は連続して減少しています。11月は前年よりは低い値となっています。人吉(14.3)、有明(11.8)、山鹿(11.0)、八代(10.3)、菊池(10.2)が高くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 1件（前月比0.3、前年比0.1）でした。平成29年度は大きなピークを認めることなく、低い値で推移しており、11月も大きな変化はありませんでした。
8. 突発性発疹 : 129件（前月比1.2、前年比1.2）。前月比、前年比とも大きな変化はなく推移しているようです。
9. 百日咳 : 0件（前月比-、前年比-）。11月の発生はなく、例年と同様に低い値で推移しています。

10. ヘルパンギーナ : 80件(前月比0.5, 前年比0.7)でした。例年通りに7月をピークとして連続して減少しています。前年よりは低い値となっています。天草(9.8)と特に高くなっています。
11. 流行性耳下腺炎 : 43件(前月比0.5, 前年比0.1)でした。平成29年度は6月からは例年より低い値で推移しているようです。11月は本年度では最低値となり、前年比も0.1と大きく減少しています。

### 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 54 件(前月比 1.0、前年同月 0.4)と増加はありません。熊本 42 件、菊池 2 件、有明 8 件、天草 2 件と熊本以外では有明地区での発症が目立ちます。20~39 歳にピークがありますが、高年齢層、乳幼児層にも散発しています。

### STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :  
報告数48件(前月比0.9、前年比 0.8)で、前月比、前年比は共に減少しています。男女別は、男性23件、女性25件でした。年齢別は、男性は15~54歳、女性は15~49歳に見られます。地域別は、熊本が36件、次いで御船4件、菊池3件、有明、宇城各2件、八代1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :  
報告数19件(前月比1.1、前年比 0.9)で前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性15件、女性4件で、男性に多く見られます。年齢別は、男は20~70歳以上と幅広い年齢に見られ、女性は16~54歳に見られます。地域別は、熊本14件、次いで宇城2件、菊池、八代有明各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :  
報告数8件(前月比1.1、前年比0.8)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性5件、女性3件でした。年齢別は、男性は20~39歳に見られ、女性は20~49歳に見られます。地域別は熊本5件、御船、八代、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症 :  
報告数23件(前月比1.2、前年比 0.9)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性20件、女性3件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は16~54歳に見られ、女性は15~34歳に見られます。地域別は、熊本が20件、次いで菊池、八代、有明各1件でした。

### 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :  
報告数は15件(前月比 : 0.9、前年同月比 : 0.7、男女比 : 12/3)で3月をピークに減少・引き続き横向き推移にあります。  
熊本地区(3)、阿蘇地区(3)、八代地区(3)、有明地区(3)、人吉地区(2)、山鹿地区(1)と広範囲に認めます。25-29歳(1)もありますが、70歳以上(11)をピークに55歳以上で集中して検出されました。

▼H27, 28と比較して例年通りの横向き推移です。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は5件（前月比：2.5、前年同月比：1.0、男女比：3/2）で増加傾向にあります。熊本地区(3)、有明地区(2)の報告でした。1-4歳(3)、65-69歳(1)と70歳以上(1)でした。

▼H27, 28に比較し例年並みで推移していましたが、今月増加傾向となり留意が必要です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。前月に引き続き報告はありませんでした。

▼H29. 3月(1)以降引き続き報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で今月は報告がありませんでした。

▼H27, 28に比較して少ない経過で推移しています。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は4件（前月比：2.0、前年同月比：1.3）で8月以降減少経過にあります。熊本地区(4)からの報告でした。年齢別には0歳(2)、5-9歳(1)、30-34歳(1)でした。

▼H27, 28に比べてピークなく、例年並みの件数で横向きに推移しています。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は6件（前月比：1.2、前年同月比：0.1）で引き続き横向き推移となっています。熊本地区(3)、水俣地区(2)、人吉地区(1)からの報告で1-4歳(1)、5-9歳(3)、10-14歳(1)、70歳以上(1)でした。

▼H27, 28に比べてピークなく、例年よりかなり少ない件数で横向きに推移しています。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で前月に同様、報告はありませんでした。

▼H28. 12月(1)のみでした。引き続き報告はありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で4月をピークに引き続き8月以降報告はありませんでした。

▼H27, H28に同様の横向き推移ですが、今後の増加も見込まれますので留意が必要です。

## 届け出対象感染症

1類感染症	：	報告はありませんでした。	
2類感染症	：	結核	27件
3類感染症	：	細菌性赤痢	1件
		腸管出血性大腸菌感染症	2件
4類感染症	：	E型肝炎	1件
		つつが虫病	5件
		日本紅斑熱	1件
5類感染症	：	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3件
		後天性免疫不全症候群	1件
		侵襲性肺炎球菌感染症	9件
		梅毒	9件